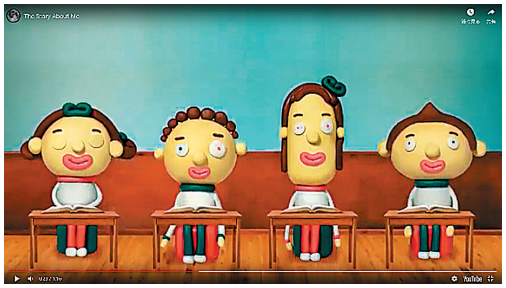
イスラエル学生のデザインが明日の教室を笑顔にする

イスラエルの学生が作成したMovie[注]について、見たまま、感じたままの鑑賞記を綴らせていただく。

学校の教室。生徒たちが算数の授業を受けている。しっかりと聞いて、理解しているように見える。でも、教えているはずの先生が何だか不安そう。



“今日は算数の授業で、新しいことを教えているけど、生徒のみんな、ちゃんと理解してくれているかな？？　教室には大勢の生徒がいて、１人ひとりをきめ細かくフォローできているか、とても不安だわ……”

“でも、画期的な装置が発明されたのだから、これを使えば、生徒たちの集中度がわかるようになるはず。あれ！？トビー君の集中度が落ちているわ。すぐに、フォローしなくちゃ。この発明品のおかげで自信をもって授業に臨むことができるわ。本当に素晴らしい世の中になったものね！！”

こんな発明品があったら、どれだけ素敵なことだろう、と共感せずにはいられない。このMovieの誕生にあたり、海を越えたコラボレーションがあった。

2016年12月、東京大学生産技術研究所（IIS）と英国ロイヤル・カレッジ・オブ・アート(RCA)が、RCA-IIS Tokyo Design Labを設立した。「デザイン」と「エンジニアリング」の融合を掲げ、「イノベーティブなプロトタイプ」の創出、人材育成、デザインエンジニアリング拠点の構築に取り組んでいる。国際的なネットワークを広げる一環として、イスラエル・エルサレムにあるベツァルエル美術デザイン学院とのコラボレーションを実施した。

コラボレーションでは、まず、IIS内で行われている各研究内容がベツァルエル美術デザイン学院に紹介された。そのなかに、人が何に注意を向けどのように行動しているのかを知るための、コンピュータビジョンによる人物行動のセンシング技術があった。それに惹かれたイスラエルの学生が、着想を得て作成したのが先ほどのMovieである。まさに、IISの「エンジニアリング」とベツァルエル美術デザイン学院の「デザイン」が融合されて、生徒たちも先生も授業が楽しくなる「イノベーティブなプロトタイプ」が提案されることになった。

最後に、懇切丁寧にご説明いただいた東京大学生産技術研究所(IIS）と、ベツァルエル美術デザイン学院とのコラボレーションをご紹介いただいたイスラエル大使館に感謝したい。　（JOI調査員　関根）

注：“The Story About me” by Barak Rubinovitz.
https://www.designlab.ac/single-post/2018/06/07/Bezalel-Collaboration